

[新刊紹介] 雑草の自然史，標本に基づいた仙台市野生植物目録，ワイド図鑑：身近な野草・雑草，皇居東御苑の草木図鑑，果物学：果物のなる樹のツリーウォッチング，図鑑 愛知県森林公園植物誌，カエデ識別 ハンドブック，冬芽 ハンドブック

著者	鳴橋 直弘，中田 政司，加藤 雅啓，大原 隆明
著者別表示	Naruhashi Naohiro, Nakata Masashi
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	58
号	1
ページ	57-59
発行年	2010-12-30
URL	http://doi.org/10.24517/00053434

新刊紹介

○藤島弘純：雑草の自然史 染色体から読み解く雑草の秘密 B 6判, 203頁. 2010年3月30日. 築地書館. 2,400円.

キツネノボタン, ヒメキツネノボタン, ケキツネノボタン, ツユクサ, マルバツユクサを対象に, 染色体を武器にそれらの種の内部構造を分析し, 地理学的に, 生態学的に, 歴史的に考察した本である。

本書は, “田んぼの雑草, キツネノボタンの種分化”, “屋久島の固有種, ヒメキツネノボタンの誕生”, “ケキツネノボタンは多型的な複合種, 種の起源は複雑だ”, “ツユクサは有史以前にヒトとともに日本列島へやって来た”, “マルバツユクサの故郷はアフリカのサバンナ地方”, “圃場整備で田んぼの生き物が変わった”の6章からなっている。

種内の個体差の研究は, 形態が分析し易いものであり, また, 数もこなせるものであったので, これまで多くの研究がなされてきた。染色体からの分析は生きた植物でないといけないことや, 観察に手間が掛かるので, 個体数をこなすのはたいへんなことである。著者の染色体観察技術はすばらしい上に, 長い時間を掛けてデータを集積している。この本は長年の著者の研究の集大成を分かり易く書いたものと思える。ただ残念なことは染色体の構造変化がどういう風におこるのか, また, その結果どのように淘汰されて行くのかがはっきりしないことであろう。著者の言おうとすることが, 一般の読者にどれくらい伝わるのかは不明である。

(鳴橋直弘)

○仙台市の植物相調査委員会(編)：標本に基づいた仙台市野生植物目録 A 4判, 309頁. 2010年3月31日. 財団法人仙台市公園緑地協会.

2008年, 2009年に行われた仙台市の植物相調査事業の報告書で, 1年次の成果として発行された『都市公園を中心とした仙台市植栽樹木目録』の姉妹編となるものである。表題のとおり, 2年間で収集された標本を中心に, 市民からの寄贈標本, 東北大学植物園記念館(TUS, TUSG)などに収蔵されている標本を証拠として編集されたもので, 169科, 2177種類が収録されている。これは宮城県産維管束植物の推定種類数3030種類の約72%に相当し, このうち128種類は宮城県初記録という。事業を通じてTUS未整理標本から発見されたオニバスの標本をはじめ, 2009年に新種記載されたフボウトウヒレンの生態など7種類が8ページのカラー口絵写真で紹介されている。目録はシダ植物から順に, 科名, 和名, 学名のあとに採集データが1行ずつまとめられ, 見やすい。最後に, 記録があるものの標本で確認できなかったため留保された植物のリストも添付されている。これだけのものがわずか2年でまとめられたというのは驚異であり, この種の事業の良い手本となる。その事業計画や経過, 実施体制が最後の索引の前にまとめられていることも参考になる。

なお, 事業で収集された1万数千点の標本は, 2008年4月にオープンした仙台市野草園新野草館の標本室に収蔵され, 研究者が閲覧することができる。本書は非売品であるが, 希望者は仙台市野草園に問い合わせるとよい。

この事業は財団法人国際花と緑の博覧会記念協会の平成21年度助成を受けて実施されたものである。この助成制度は公益法人やNPOなどの団体が対象で, 事業費の50%以上は申請者の負担となるが, 調査研究開発や活動・行催事に利用することができる。興味ある方は公募のホームページhttp://www.expo90.jp/main/invitation/invitation_h23.htmlを参照されたい。

(中田政司)

○菱山忠三郎：ワイド図鑑 身近な野草・雑草 B 5判変形, 368頁. 2010年4月10日. 主婦の友社. 1,600円. 身近な植物を季節別, 生育地別に分けて, 写真と文章で解説した図鑑である。

本書は, はじめに, 本書をご覧になる前に, 春編, 夏編, 秋編, 植物用語の図解, 植物用語の解説, 索引からなる。

“身近な野草・雑草について, それぞれの芽ばえ, 花, そして実の様子など, なるべく多くの姿を紹介し, その植物の本当の姿をわかっていただけるように心がけました”と著者は言う。なるほど越冬状態や, 花以外の季節, 果実, さらに地下の状態まで示したものである。360種以上の植物が掲載されているという。掲載植物の学名の無いのが残念である。

オナモミは外来のオオオナモミに押されて少なくなっていること, またイガオナモミが広がりつつあると書かれている。しかし, 関西ではイガオナモミがオオオナモミによる繁殖干渉の結果減ぼされ, かつて海岸地で生きている, との報告がある。本は読みやすく, 花や果実の拡大写真もきれいで, 著者の長年の観察結果が随所に見られ, 読んでいて楽しい本である。

(鳴橋直弘)

○菊葉文化協会（編）・近田文弘（解説・写真）：皇居東御苑の草木図鑑 B 6 判, 142 頁. 2010 年 5 月 15 日. 大日本図書. 2,500 円.

本書は皇居の東側地区にある皇居附属庭園に生育する樹木, 草, シダ植物 402 種の写真と解説によるガイドブックである。

本は, この図鑑について, 草木の話, 樹木編, 草編, シダ植物編, 和名さくいん, 学名さくいんからなる。

東御苑には, 年間 90 万人の人がやってくるという。また外国人も多いのが特徴的であるので, この本には和名以外に, 学名, 韓国名, 英名, 中国名が書かれている。本が小型のため写真は小さいが, 植物の写真は鮮明できれいだである。(鳴橋直弘)

○八田洋章・大村三男(編著)：果物学 果物のなる樹のツリーウォッチング A 5 版, 388 頁. 2010 年 6 月 20 日. 東海大学出版会. 4,800 円 (税別).

「まえがき」で編集責任者の八田氏は, 副題の「果物のなる樹のツリーウォッチング」が本書のテーマであると記している。果物の魅力もさることながら, 彼が共同研究者とともに長年研究してきたフェノロジー (生物季節) を当てはめて, 果物のサイエンスをまとめ上げるというのが趣旨である。その上に, 果物の栽培層も絡ませている。40 頁をさいた口絵には「色々な果物の推定される原産地」, 「果物の開花一収穫時期カレンダー」, 「ツリーウォッチングと主要品種群」がカラー写真と図解でわかりやすく収録され, これだけでも読者を十分ひきつける。中東, 中国, 東南アジア, 北米, 中米, 南米が原産地となって果物が由来したことが図の中に記され, 本書で取り上げた果物の開花と果実収穫の時期が一覧表にまとめられている。そしておいしいそうな果物の写真集が載っている。本編は 3 章にわかれ, 第 1 章の「果物のなる樹のツリーウォッチング」では, 果物ばかりでなくふつうの樹木にも当てはまる形態学の基本が 4 章に分けて解説されている。第 2 章の「果物学事始め」では「果物の博物学」と「おいしい果物を収穫するまで」に分けて, 果物のあれこれや果物作りのノウハウが紹介されている。最後の第 3 章の「果物学各論—果物と人々との係わり—」では 16 章に分けて, それぞれの果物がいろいろな角度から語られている。果物ごとに, たとえばつくば市のどこそこに栽培されているという特定の果樹についてのフェノロジーの観察記録が載せられているのに続いて, 分類・来歴・特徴, 発育と栽培管理, 病虫害と駆除, 生育適地条件, 栄養成分, 加工と保存方法, 品種改良などが適宜説明されている。最終章の「その他の果物」では熱帯果物を含むさまざまな果物が簡潔にまとめられている。私の個人的な嗜好で, 熱帯果実の王ドリアンや女王マンゴスチンの記事を探したが, 博物学などのところでふれられている程度だった。日本人に身近な果物が主な題材なのでこれは仕方のないことである。それでも, アボカド, グアバ, チリモヤ, パパイア, マンゴーなどは紹介されている。第 1 章の随所に「研究ノート」があって, さまざまなトピックについて詳しく解説があるので, 気分転換にはもってこいである。巻末には用語集が付いていて, 専門用語を理解する上で助けになる。

この本の特徴は, 3 つの章のテーマを 1 冊の本にまとめたことである。ここにこそ, 果物という身近な樹木を通してフェノロジーの意義を伝えたいという編者の狙いがある。本書を読むと, 果物の特徴がわかるばかりか, 植物の形態, 生物季節もわかるという具合である。この「果物学」は, 植物に関わるものとして傍に置いて折に触れて読みたい一冊である。本の性質上, 樹木に限定されているが, 草本の果実は別の本を見ることがしたい。本書は編者を含め 19 名の著者によって書き上げられた。大人数の割には 1 冊の本としてよくまとまっている。

最後に, 編者の八田洋章氏と私は同じ国立科学博物館筑波実験植物園に勤務し, 八田氏は退職されたあとも, 樹木フェノロジー観察会を主宰して活躍されていることを紹介しておきたい。本書のほとんどの果物の解説に, 樹木の季節変化の図が付いているが, この図からも八田氏のフェノロジーに対する熱意を見ることができる。

(加藤雅啓)

○飯尾俊介：図鑑 愛知県森林公園植物誌 A 5 判, 251 頁. 2010 年 9 月 1 日. 森林公園ゴルフ場運営株式会社. 2,500 円 (税別).

本書は愛知県北西部に位置する愛知県森林公園とその隣接地域, 約 4 キロ四方に生育する植物を扱った植物誌であり, 春, 夏, 秋冬の 3 つに区分した写真入りの各分類群の紹介部分, 森林公園の植物相についての概説部分, 確認されている全分類群の目録部分から構成されている。本書が扱っている範囲は東海丘陵要素とよばれる植物群が多くみられる地域であり, これまでの図鑑ではほとんど掲載がないフモトミズナラを写真入りで紹介しているなど, 地元の植物愛好者のみならず植物好きには楽しい本である。ヘビイチゴとしてミツバ

ツチグリの写真が出ているなどの若干のミスは見受けられるものの、愛知県は未だにまとまった植物誌が発行されていない地域であるため、美しく同定が十分可能な写真を多用した本書は資料的な価値も非常に高い。地元でのCOP10開催に間に合わせるために準備期間が約2年しかなかったとは信じられないほどの力作である。大都市近郊の例に漏れず、絶滅の危機に瀕した分類群が多いが、各分類群の過去の生育状況に触れながら植生遷移が与える影響の大きさに言及した部分は、50年以上にわたって同地方の植物を調査し続けている著者の面目躍如である。

本書が扱う地理的範囲は狭いため、一般向けの書籍として販売されると園芸目的の採取に利用されかねない。詳細な生育地の記述をできるだけ避けているのはそれに対する配慮であろう。本書のような良書の出版にも気を遣わねばならないのも、この時代の悩ましきである。
(大原隆明)

○猪狩貴史：**カエデ識別** ハンドブック 新書判，100頁．2010年11月15日．文一総合出版．1,400円．

本書は、カエデのハンディなミニ図鑑である。

本は、カエデ科植物の特徴と用語解説、本書の使い方・凡例、日本のカエデ一覧(葉)、日本のカエデ一覧(果実)、ミツデカエデからチドリノキまでの解説文と付録：日本のカエデ科樹木の特徴(種レベル)、参考文献、参考ホームページ、索引、あとがきからなっている。

本文は和名、学名、分布図、簡単な説明文と写真からなり、写真は植物体、1枚の葉、花、果実、冬芽、樹皮、まれに樹形、黄葉、紅葉からなる。

本書には、日本に自生するカエデ属27種とそれらの種内分類群を合わせた54分類群が、葉による見分け方を中心に1種ごとの見開きで紹介されている。また、全種の芽鱗、性、花序、花、果実、葉の一覧表は、冬芽と落ちた果実のみとか、花だけとかの不十分な植物部位の同定に大いに役立つものである。
(鳴橋直弘)

○広沢 毅(解説)・林 将之(写真)：**冬芽** ハンドブック 新書判，88頁．2010年11月20日．文一総合出版．1,200円．

本書は、冬芽と冬芽観察のハンディなミニ図鑑である。

本は、本書の使い方、冬芽と枝の検索表、凡例、冬芽観察のための用語解説、冬芽を観察しよう、オニグルミからメタセコイアまでの解説本文とさくいん、参考文献からなっている。

本文は1種ごと、和名、学名、木の高さ、冬芽のつき方、枝先の太さ、冬芽の形態、維管束痕の数、解説文、冬芽をつけた枝の先と葉痕・冬芽の写真からなる。

冬芽はそれぞれの種ごとに特長があり、多くの人によって図示されてきた。それらは線画か、写真であることが多く、今ひとつ不満があった。今回はスキャン画像を使用したそうで、冬芽の形や着き方が鮮明に表現されている。ただ、掲載された種数が少ないのは残念なことである。
(鳴橋直弘)